



サクランボの木々に連なる幾多の氷柱  
(14日午前5時半頃、山辺町で)

## 氷柱が育む サクランボ

県内各地のサクランボ農園で、霜被害防止のため、水をまいて花芽全体を氷で包む「散水氷結法」が行われている。枝からは無数の氷柱が垂れ下がり、幻想的な光景となっている。

県農業技術環境課によると、雌しべに霜が当たると内部の水分が凍って膨らみ、細胞壁を壊すため、冷え込む未明に水をまいて花芽全体を包み、包んだ水の表面だけ凍るようまき続けることで内部の凍結を防ぐ。山辺町元宮の「多田農園」では約10年前にスプリンクラーを設置。設置前は霜で収穫量が約4割減った年もあったが、設置後は被害がほとんどないという。

日は最大約20センチの氷柱が出現。多田耕太郎社長(62)は

「寝る間も惜しんで栽培している。おいしいサクランボになって」と話していた。散水氷結法は今月下旬まで行われる。

霜注意報が発令された14